03 March 2024

［月刊］キリスト教書評誌

本のひろば

HON-NO-HIROBA

ISSN 0286-7001
一般財団法人キリスト教文書センター
1957年7月17日第三種郵便物認可
2024年3月1日発行（毎月一回1日発行）第795号

出会い・本・人
偶然の出会いに導かれて　吉田　新

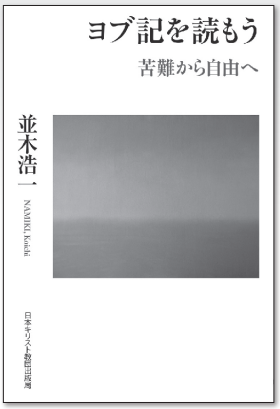
特集 シリーズこの三冊！
ユダヤ人とイスラエル社会を知るための
この三冊！　勝又悦子

エッセイ
『［縮刷版］旧約新約 聖書大事典』・
『［新装復刻版］聖書地図』（教文館）刊行に寄せて　山我哲雄

本・批評と紹介
大嶋重徳 著　［改訂新版］自由への指針　牧田吉和
下村喜八 著　苦悩への畏敬　片柳榮一
大頭眞一 著　いのち果てるとも　西原智彦
ジャン・カルヴァン 著／堀江知己 訳　イザヤ書註解Ⅰ　大西良嗣
辻　学 著　牧会書簡　河野克也
Duo Stella　紫園　香、菅野万利子 共著
ヒャッホウ！　おばあさんだって冒険したい！　佐藤知津子

◆近刊情報
◆バックナンバー表
◆書店案内

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457
e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ https://bp-uccj.jp《価格10%税込》



ヨブ記を読もう 並木浩一

苦難から自由へ

2024年2月20日刊行予定

ヨブ記は世界における不条理と悪の問題を正面から取りあげる、魅力的で難解な文書だ。その難解なテクストの背後にある思考を、『ヨブ記注解』の著者が自身による訳を用いて解きあかす。 **◆四六判 並製・224頁・定価2,640円**

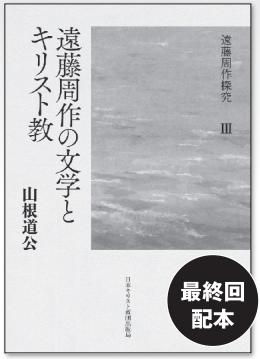
『ヨブ記　並木浩一訳』PDFを出版局ホームページで公開！

好評発売中 ヨブ記注解　並木浩一　定価6,6000円

遠藤周作探究

2024年2月22日刊行予定

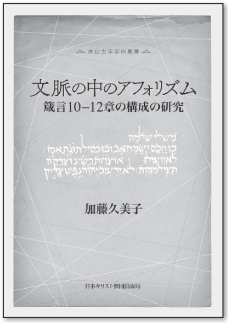
Ⅲ 遠藤周作の文学とキリスト教 山根道公



最終回配本

遠藤周作がいかに聖書を読み込んだか、吉満義彦や井上洋治が彼に与えた影響などを考察。幾度にわたる彼の闘病経験が『沈黙』をはじめとする作品にどのように反映されているかも吟味する。 **◆A5判 上製・352頁・定価4,180円**

シリーズ刊行案内
Ⅰ 遠藤周作　その人生と『沈黙』の真実　定価4,840円
Ⅱ 遠藤周作『深い河』を読む　マザー・テレサ、宮沢賢治と響きあう世界　定価3,520円



文脈の中のアフォリズム 箴言10−12章の構成の研究

加藤久美子

2024年2月22日刊行予定

『箴言』の第二部分にあたる10章１節〜22章16節で展開されているのは、単純な個人の応報思想ではない――、構文や語形の綿密な吟味や考察をした上で、その構造や統一性を示す。

◆A5判 上製・352頁・定価6,600円

出会い
本
人

偶然の出会いに導かれて

吉田　新

ここ十年来、聖書和訳の調査、研究を進めているが、資料との出会いはいつも偶然であった。英国でマラン手稿を見出したときも、当初はオックスフォード大学のボドリアン図書館でキリシタン版の辞書を閲覧する予定であった。その際、立ち寄った同図書館付属日本研究図書館の司書の方から、「このような手書きの文書もありますよ」と手渡されたのが、先の手稿であった。この手稿には、それまで存在が確認できていなかったカール・ギュツラフが訳したと考えられるロマ書の書き写しが含まれていた。また、イギリス国教会の司祭でもあったソロモン・マランによるヤコブ書の和訳も記されていた。

日本聖書協会の倉庫で見出した三要文も、思いがけない出会いであった。もともと、和訳聖書の翻訳資料を調査、整理する目的であった。禁教下に秘密裡に印刷された『三要文』（一八七一―一八七二）は、三冊しか現存していないとされている（うち一冊は行方不明）。地下倉庫に眠っていた古い茶箱の中から、もう一冊の『三要文』が現れたとき、思わず歓声を上げた。従来の定説を覆すような資料は、天からの贈り物のように、図らずも与えられたものであった。偶然、見出された資料に導かれて、和訳聖書の研究は深められていく。先のような出会いを心待ちにしつつ、いまでも方々に赴き、資料調査を続けている。

調査の際、海老澤有道『日本の聖書 聖書和訳の歴史』（講談社学術文庫）を必ず手元に置いている。この本は、キリシタン時代から、大正改訳までの和訳聖書の歴史を網羅的に紹介する内容である。もっとも近年の研究からみた場合、不正確な記述も少なくない。それでも、本書に収められている解説文の信頼性は高い。旧版の初版から半世紀以上経たいまでも、色あせることはない。和訳聖書を研究する上で欠かすことができない必携書であり、羅針盤のように調査研究の目指すべき方向を常に指し示してくれている。（よしだ・しん＝東北学院大学文学部教授）

▼シリーズ　この三冊！

ユダヤ人とイスラエル社会を知るためのこの三冊！

勝又悦子（かつまた・えつこ：同志社大学神学部教授）

二〇二三年一〇月七日、ハマスによるイスラエル南部地域への急襲、残虐な殺戮、人質拉致への報復として、ガザ地区ではイスラエル軍の激しい攻撃が続いている。その過程で、甚大な数の犠牲者が出ていることに心痛めるばかりである。筆者は、ユダヤ文献の自由闊達な発想、議論の創造力に魅了され、九〇年代から二〇〇三年まで足掛け一〇年エルサレムに留学、出産後、障害のある長男の療育をユダヤ人もムスリムも共生する環境で受けながら生活した。その後、時折イスラエルを訪れる度に、自爆テロが頻発した当時の緊張感が和らぐのを感じ、サウジアラビアとの国交樹立かとのニュースに、ついにここまで来たかと思った矢先のことであった。以降、現地から怒涛のように流れてくるニュース、情報はハマス・イスラエルの両サイドに公平とは言い難い。しかし、対立を徒らに煽る構図は更なる対立を生むだけである。ここでは、決して一枚岩ではない、ユダヤ教、ユダヤ人、イスラエル社会の理解の一助となる三冊を紹介したい。

まずユダヤ人、ユダヤ教についての概説書として、日本のユダヤ教研究を牽引してきた市川裕氏による『**ユダヤ人とユダヤ教**』（**岩波書店**）を挙げたい。コンパクトな新書版で、「歴史」「宗教」「学問」「社会」の四側面からユダヤ教、ユダヤ人について学ぶことができる。近現代以降、西欧で同化の道をたどるも、また東欧で慎ましくも伝統的なユダヤ教世界を形成するも、結局は、大国の思惑の中で暴力と迫害に翻弄され、どの国も沈黙を貫いたという「歴史」から、国土の安全を巡っては過剰な警戒と攻撃をも辞さないイスラエルの背景を学ぶことができるだろう。国なきユダヤ人を支えてきたのがユダヤ教という「宗教」であり、ユダヤ教精神の探究の場である「学問」である。それはまた議論の場でもあるが、この「学問」という括りでユダヤ

教を捉えることができることは、ユダヤ人、ユダヤ教の特性でもある。また、本書で指摘される現代イスラエル「社会」の宗教化と世俗化の二極化は、西岸地区への入植が見過ごされてきた背景となる。

聖書学者でもあり長くイスラエルに居住し、テル・アビブ大学人文学部の教員を務める山森みか氏が、二〇〇〇年代初頭のイスラエルの日常生活を伝えるのが『**乳と蜜の流れる地から——非日常の国イスラエルの日常生活**』（**新教出版社**）である。一九九三年オスロ合意が成立し、イスラエルとパレスティナの二国家共存の実現が信じられながら、九五年には当時のラビン首相が国内極右の法学部生の銃弾に倒れ、二〇〇〇年に入り右傾化していくイスラエル社会を垣間見ることができる。思えば、この時代にナタニヤフが実権を握ったのであり、今につながる混迷の始まりでもある。「ユダヤ人とアラブ人」の章では、和平交渉が行き詰まる中において、なお共存の枠組みに向けて苦悩する山森夫妻を含めた市民の姿がある。「安全と防衛」の章では、「議論」を伝統とする民が、意見の相違から現職の首相の命を奪うという暴力を犯したことに社会が受けた衝撃が描かれる（筆者も事件後の大学で、教員が大学教育の責任を感じると沈鬱にコメントしたことを覚えている）。他方で、「テロリストには決して妥協しない」イスラエルの強硬な姿勢も丁寧に説明される。そして人はいずれかの立場にコミットしなくてはならないという山森氏のあとがきの言葉は、世論や学術界、世界自体も無言のうちに分断する中で、立ち位置を見失いそうな筆者を勇気づける。同時に、割礼、出産事情、兵役について、ユダヤ人における家族の意味など、リアルタイムのユダヤ社会、ユダヤ教の状況を知ることもできる。センチメンタリズムに陥らぬよう抑制された冷静な描写、しかし、現地の生活を知る者としてくすっと笑ってしまうユーモアが随所にあふれている山森氏の文章もまたご主人のイラストも美しい。

今回の戦争状況に対して、最も無責任に投げつけられるコメントが、イスラエルはナチスドイツと同様のジェノサイドを行っているというものだろう。果たして、ショア下のユダヤ人は人質拉致をしたのか、何千発ものロケット弾を打ちこんだのか、という反論を抱きながら、強制収容所を生き延びた心理学者ヴィクトール・E・フランクルによる『**夜と霧**』（**新版、池田香代子訳、みすず書房**）を読み返す。すると、人間性への尊厳が皆無の絶望の極限状況が描かれているはずのこの書の中にも、強制収容所を俯瞰的にみるフラン

クルの少々アイロニカルな描写が散見され、思わずくすっと笑ってしまうのである。フランクル自身、ユーモアが絶望の淵から人を救うと考え、強制収容所においても一日一つ笑い話を作ろうとしたという。そして、強制収容所という状況においてさえ、人は、世界の美しさに魅了されるということ、そして、未来があることを信じることが生きる力になり、「人間が生きることには、どんな状況にも、意味がある」こと、苦と死にも意味があることを教えてくれる。絶望の淵を描いた本書が、絶望から人を導き、そして、混迷の淵にある今の世界に一筋の光を与えてくれるようである。

歴史を紐解けば、圧倒的な力を持つ征服者の前に敗北し続けたのはユダヤ人の方である。バビロン捕囚、エルサレム第二神殿の崩壊、バル・コホバの乱の失敗、中世キリスト教圏では、十字軍、黒死病を起因とするユダヤ共同体への襲撃、スペイン追放、さらに、東欧、ロシアでのポグロム、そしてヨーロッパ全体が飲み込まれるナチスドイツによるショア。強大な暴力の下、路頭をさ迷ってきたのはユダヤ人である。しかし、トーラーとその学び、議論の伝統、教育、生活を網羅する戒律と伝統といった見えないモノを継承することでユダヤ教、ユダヤ人は生き延びてきた。圧倒的な軍事力で、人を、民族を、伝統を抑え込むことはできないということをユダヤ人自身が体現してきたのではなかったか。ここで紹介した三冊には、「議論の民」としてのユダヤ人の姿、自己批判とユーモアというユダヤ的精神、を共通して見出すことができる。自己批判もユーモアも自身を相対化したところに生まれる。どんな困難な歴史の中にあっても、議論を厭わず、自己を相対化し、ユーモアを交えた批判の目を自己に向けてきたユダヤ人の姿を想起するとき、圧倒的な軍事力に訴え続ける今のイスラエルの状況は決してユダヤの精神に適うものではない。フランクルも伝えている——暴力の客体が暴力の主体になる可能性を、そして「まともな人間とまともでない人間はどんな集団にもいる」ことを。人間を定めるのは「集団」ではない。

既にユダヤ人自身が、二〇〇〇年代以降のポピュリズムのまん延、入植地拡大の放置、パレスティナ人への不当な扱いを、見逃してきたことへの鋭い批判を自らに向けている（故アモス・オズ、歴史学者ユバル・ハラリ、ダニエル・ソカッチ等々）。その積載された困難な問題を「議論の民」に立ち戻り取り組むこと、それは、山森氏の言う「安全を最優先し、和平プロセスを進めるというアクロバティックな事

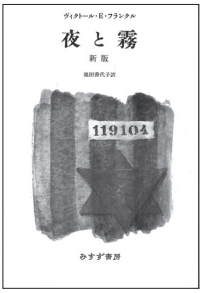
業」であり、市川氏が重んじるユダヤ教の用語「伝統の偶像化の排除せよ」――自らの主義、主張、アイデンティティをも一旦投げ出すこと――であり、それは、また議論と強靭な精神力によって落とし所を見出す困難な作業である。しかし、暴力の連鎖を断ち切るために避けては通れない。そして、イスラエルという「集団」を超えて、議論と対話を通して向き合うことになる相手にも、他責一辺倒ではなく自己を相対化し、自己批判し、暴力性からの脱却を図ることが強く求められる。

『ユダヤ人とユダヤ教』

市川裕：著
岩波書店
2019 年刊
新書判 200 頁
902 円

『「乳と蜜の流れる地」から――非日常の国イスラエルの日常生活』

山森みか：著
新教出版社
2002 年刊
四六判 190 頁
2,090 円



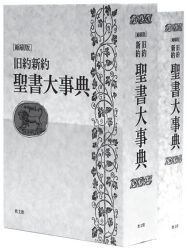
『夜と霧【新版】』

ヴィクトール・E・フランクル：著
池田香代子：訳
みすず書房
2002 年刊
四六判 184 頁
1,650 円

†エッセイ

『［縮刷版］旧約新約 聖書大事典』・『［新装復刻版］聖書地図』（教文館）刊行に寄せて

山我哲雄（やまが・てつお　日本旧約学会前会長）



一九八九年に日本語版が出版された『旧約新約 聖書大事典』と、本来その付録であった『聖書地図』が、約三五年ぶりに復刻出版された。当時、駆け出しながら編集委員会の一員として編集作業に携わった者として、感慨無量の心境である。

『大事典』の方は、わが国では初（にして未だに唯一）の、歴史的批判的方法に基づく「聖書学的」な性格の本格的な聖書事典であり、ドイツ語圏で定評のあるロスト／ライケ編『Biblisch-Historisches Handwörterbuch』（四巻、一九六三―七九。略称BHH）を底本としたもので、原著執筆者には旧約ではヴェスターマン、カイザー、コッホ、新約ではヴィルケンス、マルクスセン、シュミットハルスといった、当時のドイツ語圏で最先端の聖書学者が綺羅星の如く名を連ねているだけでなく、アメリカのブライトやメツガー、フランスのジャコブ、日本の関根正雄、前田護郎など、国際的な各分野の第一人者たちも参加している。日本語版担当者も、編集代表である荒井献、石田友雄両先生から、編集実務を務めた（当時）若手の佐藤研氏や筆者に至るまで、この時点での日本の聖書学界のまさに「総力を結集した」陣容であったと言えるであろう。

日本語版の大きな特色は、単なるドイツ語原著の邦訳というだけでなく、当時の聖書学の著しい発展と変化を顧慮して、原著の監修者および出版社の快諾を受けて、日本語版の編集委員や項目担当者の判断で自由に手を加えてあるということである。したがって、本書の項目には四つの異なる性格のものがある。(1)原著項目の日本語訳

（例えば「詩篇」の項）、⑵原著項目を日本語訳したうえで、日本人研究者が補筆したもの（例えば「パウロ」の項）、⑶原著項目を採用せず、日本人研究者による項目に差し替えたもの（例えば「ローマ人への手紙」の項）、⑷原著に項目がなく、日本人研究者が新たに執筆したもの（例えば「ヤハウェ」の項）。なかには、原著項目を日本語訳したうえで、日本語版担当者が原著項目の不十分さを批判し、補筆改訂しているものさえある（例えば「マルコ福音書」の項）。したがって、ドイツ語原著第一巻出版後の約二五年間にわたる国際的な聖書学の発展を踏まえて、学問的に一九八九年の時点までアップデートされているわけである。

このような破格ともいえる自由な編集活動が可能になった背景には、日本の聖書学に対する原著編集者、出版社の信頼と評価があったことは言うまでもない。初版発行以来、「圧倒的な信頼感」（本書「帯」）を伴って研究、釈義、説教、教育などで必携書として広く愛用されていたこの聖書事典が、装丁も新たに、より手ごろな価格で復刻出版されたことは喜びに堪えない。B5判からA5判に縮刷（約八二％）されており、老眼には多少つらいが、より軽くなったので手首にはよいだろう。

なお、辞書の常で初版には誤植が多く見られたが、今回の復刻は訂正済の第三版によっているので安心である。その他の点で内容上の変更、訂正はない。もちろん、この間の約三五年間の聖書学の進展と変化には著しいものがあるが、それらを反映させるためには「改訂」程度では済まず、まったく新しい聖書大事典が必要である。あくまで「古典的」なものとして、元の形のまま復刻されたものと受け止めるべきであろう。もちろん、聖書研究の「友」として「現役」でも十分通用する。

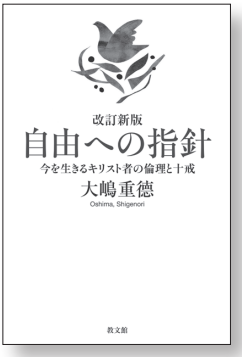
『聖書地図』の方は、前述のようにもともとは『大事典』の付録であったが、好評につき、一九九〇年に解説と索引を加えて別売されたものの復刻版で、パレスチナ歴史地図（南北2枚）、パウロ伝道旅行地図、エルサレム歴史地図の4点、および解説・索引からなる。今でもわが国で最も詳しい聖書歴史地図であり、こちらの方は元通りのサイズである。

［縮刷版］旧約新約
聖書大事典
旧約新約聖書大事典編集委員会 編
聖書学だけでなく、古代言語学・歴史学・考古学・宗教学などの成果を結集し好評を博した大事典が、手に取りやすい縮刷版で登場！
早期購入特典として、同時復刊の『「新装復刻版」聖書地図』を応募者全員にプレゼント！
（応募締切：2024年4月末）
●A5判・上製・函入・1456頁・定価29,700円
教文館 TEL:03-3561-5549（出版部直通）《呈・図書目録》

†本・批評と紹介

信徒や若い世代に学んでほしい！議論してほしい！

〈評者〉**牧田吉和**



［改訂新版］
自由への指針
今を生きるキリスト者の倫理と十戒
大嶋重徳著

「いいよ、この本」。これは著者の高校生のお嬢さんの読後の感想であったことが、後書きの冒頭に記されている。評者が今回あらためてこの改訂新版を読み直して抱いた感想もまったく同じである。「いいよ、この本！」であった。

なぜ、この本は良いのか。本書は「十戒」を扱っている。多くの場合、十戒は罪を明らかにし、キリストへと導くという働きが強調される（三二頁）。この場合には、十戒自身は建設的な意味を持ちにくい。しかし、本書は律法のそのような働きを認めつつも、律法の本来の働き、「救われた者としての感謝と献身の生活への指針」としての役割を強調する（三一―三四頁）。十戒は「自由にのびやかに生きるための指針」なのである。表題「自由への指針」は文字通り本書の根本的意図を示している。

このような本書の方向性は「ハイデルベルク信仰問答」の第三部「感謝について」で展開される十戒の取り扱いと重なっている。同じような方向で十戒の講解をする書物も少なくない。けれども、本書は「自由への指針」としての十戒理解を明確な神学的構造において包括的視野の中で展開している。律法に従った単なる個人的なキリスト者の生き方の指針にとどまらない。創造から終末に至る「大きな神の歴史的計画の中で、自由に生きる」こと、「キリスト教的世界観、歴史観、人生観を与え」、「世界と歴史を形成するキリスト者が生まれること」が目指されている（八、三五頁）。この視点での叙述の徹底化が、本書をユニークなものにし、優れた書にしているのである。

本書は背後に堅固な神学的理解を持ちつつも、高校生や大学生という若い世代、また一般信徒の方々にも十分に理解できる言葉で分かり易く、しかも具体的に語られている。

例えば、本書が第二戒を扱う場合にも「戦いに生きるキリスト者としての倫理」として偶像礼拝の問題も広い視野の中で扱っている（五二頁以下）。特に教会と国家の問題など社会倫理的課題を具体的に論じている。しかも、単なる社会派のような扱いではない。福音派の陥りやすい信仰の内面化に警戒しつつ、主の日の礼拝を拠点とし、神の言葉の戦い、祈りの戦いとしての道筋を示している。第三戒を扱う場合にも、「礼拝が示す自由への指針」として、「神の名」をめぐる戒めを「礼拝と生き方」として礼拝論的に展開している（七六頁以下）。教会論的意識も明確である。象徴的なのは、第七戒の「姦淫してはならない」の取り扱いである（一三九頁以下）。抽象的には論じていない。若い世代が悩むであろうこと、また夫婦関係の生々しい問題も勇気をもって扱っている。一番尋ねたい問題から身を避けていない。改訂新版では「ＳＯＧＩ、セクシャルマイノリティについて」も書き加えられている（一五六頁）。このような取り扱いを知るだけでも、本書を共に学ぼうとする意欲が湧くであろう。

本書はさっと読んで終わる書ではない。教会の各グループで、特に若い世代に読んで欲しい。学び合い、議論して欲しい。今回の改訂新版には各章の終わりに「意見交換のために」として設問が設けられている。語り合いの助けになるであろう。この点でも、著者の教育的配慮は行き届いている。

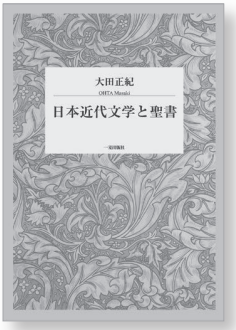
（まきた・よしかず＝日本キリスト改革派宿毛教会牧師）

（四六判・二一六頁・定価二四二〇円・教文館）

Soli Deo Gloria

日本近代文学と聖書

大田正紀
OHTA Masaki



**永遠の「まなざし」に
屹立する鷗外
〈愛〉の欠如に
苦悩する漱石**

福沢諭吉から阪田寛夫まで，傍系の文学者を貫く「聖書」の光を探る試み．

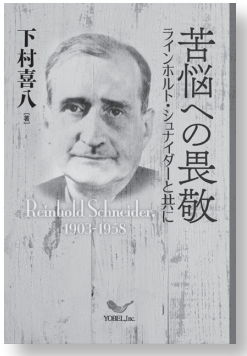
四六判・上製本
定価 4,840［本体 4,400＋税］円
ISBN978-4-86325-154-0

SDG

株式会社　一麦出版社
札幌市南区北ノ沢３丁目 4-10
TEL（011）578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯　mobile.ichibaku.co.jp

精神的な抵抗の声を発し続けた生涯に触れながら

〈評者〉**片柳榮一**



苦悩への畏敬
ラインホルト・シュナイダーと共に
下村喜八著

著者の秘められた「信」の熱情ともいえるものが伝わってくる書である。この書は下村氏が、長年研究してきたドイツのカトリック系詩人、思想家ラインホルト・シュナイダー（1903-1958）に関して、主に雑誌『共助』に書き記してきたものをまとめたものである。ファシズムに抵抗し、ドイツの悲劇を身に負い、次第に「裸の十字架」へと追い詰められていったシュナイダーの苦悩に寄り添い、自らの苦悩の場所に立とうとする下村氏の決意が、この本のいたるところに滲み出ている。シュナイダーは生来病弱で、鬱病に苦しみ、また胃腸の障がいに苛まれ続けた。しかし彼は国家社会の病といえるものにも鋭敏に反応している。彼はナチスが権力を掌握する2年前に友人に宛てて書いている。「今やヒトラーとその第三帝国のせいで、この上なくひどい幻滅がドイツの前に差し迫っている」（20頁）。シュナイダーの抵抗活動は、ボンヘッファーと同じように国内にとどまってのものであった。代表作『カール五世の前に立つラス・カサス』は、16世紀南米のスペイン植民地で、原住民の解放と人権擁護のために戦ったカサスを主人公にして、ナチスのユダヤ人迫害と侵略戦争に対して抗議した書であり、1940年の評論集『権力と恩寵』を最後に出版権を奪われ、多くの人々の協力で「非合法出版によって精神的な抵抗の声を発し続け」（25頁）たという。「ドイツ軍の従軍神父たちの手を経て当時としては実に夥しい数の出版物が前線の兵士たちの間に広がった」（26頁）。その数は100万を越えるものだったという。「東部の収容所の捕虜たちは、地面に横たわりながらこれらの文章を紙袋に書き写していた。他の者たちは、破り取られた数ページを鉄条網しにこっそり手に入れるこ

とに成功した時、自分は幸せ者だと思った」（26頁）という。シュナイダーは兵士が置かれた苦悩の状況をよく知っている。「兵士は（戦場において）行動しても、あるいはしなくても罪を犯すことになることを知りつつ個人的に決断しなければならない。自分を相手に殺させれば、その相手を殺人者にしてしまう。自分が相手を殺せば、自分が殺人者になる」（54頁）。この苦悩は兵士だけのものではないとシュナイダーは言う。「今生じている事態を是認する人間は、たとえ彼が（個人としては）あらゆる悪を厳しく批判する人間であっても、この事態に対する同罪を免れることはできない。他方また、それらを是認しない人間は、どのように生きればよいのであろうか。事態を拒否した場合も、罪を新たに呼び起こすことにならないであろうか……私は裸の十字架の前に追いやられるのを知った。そしてその場所に立ち尽くしている」（55頁）。下村氏によれば「彼（シュナイダー）の生きた時代は人間を十字架の悲劇へ導く時代であった。……この時代は一人一人の人間の生がキリストの犠牲死に近づくこと、キリストの生と同じ形を取ることを求めているのであると彼は言う。彼は祈る『キリストの生が犠牲であったのと同じようにわれわれの生を犠牲であらしめてください』（『主の祈り』）」（100頁）。今世界はウクライナ侵攻に加え、パレスティナをめぐる絶望的な戦いを目の当たりにしている。世界の混乱と苦悩が一層深まりつつあるように思えるこのような時代に、シュナイダーの言葉は、私たちに重い問いかけとなって迫ってくる。

（かたやなぎ・えいいち＝京都大学名誉教授）

（四六判・二五六頁・定価一八七〇円・ヨベル）

『季刊 教師の友』3年間の連載を単行本化

聖書のお話を子どもたちへ

小見のぞみ

子どもたちへの聖書のお話の仕方、習ったことありますか？　伝わるお話のための3つのポイントや、お話づくり4ステップ、お話の5つのタイプなど、現場で役立つ待望の手引き書。

●四六判 並製・128頁・定価1,540円

カトリック音楽を巡る論考・資料

日本カトリック教会の音楽

明治期から昭和初期まで
宣教師らの軌跡とともに

時津ハインツ
大津磨由美

開国から戦中・戦後に至るまでの日本のカトリック音楽に関する論考20編を、豊富な図版、資料とともに収録する貴重な一冊。

●A5判 上製・402頁・定価6,820円

満州キリスト教開拓村の実態とは

証言・満州キリスト教開拓村

国策移民迎合の果てに

石浜みかる

国策として多数の農業開拓団が満州国に送り込まれ、その中にキリスト教開拓団があった。敗戦と共に悲惨な最後を迎えた団員の貴重な証言集。棄民の犠牲者であり侵略の加害者でもあった開拓団の悲劇に迫る。

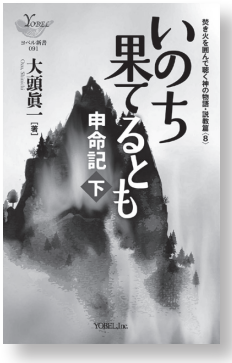
●A5判 並製・240頁・定価3,300円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 FAX 03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp《価格10%税込》
https://bp-uccj.jp

†本・批評と紹介

ユダヤ教徒とキリスト教徒を神の愛で繋ぐ説教集

〈評者〉**西原智彦**



焚き火を囲んで聴く
神の物語・説教篇8
いのち果てるとも
申命記・下
大頭眞一著

この説教集第8巻には、日本イエス・キリスト教団の大頭眞一牧師が明野キリスト教会で語った説教がまとめられています。このシリーズは、創世記前半を扱う第一巻「アブラハムと神さまと星空と」から始まり、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記へと続く「モーセ五書」の説教集シリーズで、今回の第8巻は、その最後を締めくくる申命記16～34章の12の説教で構成されています。大頭牧師とは、福音主義神学の立場から性的少数者の課題に取り組む団体「ドリームパーティー」において共に活動しています。「あの温かい人柄と、情熱的な言動はどこから生じているのだろう?」と尊敬の念を抱いていました。

今回、光栄にも書評の依頼を受けて説教集を読み、「ああ、聖書に対するこの接し方に秘訣があるのだ」と納得し、聖書との付き合い方について大きな示唆を得ることができました。

最初に、メシアへの系譜となるユダヤ人と、彼らへの啓示の書としてのモーセ五書への敬意にあふれています。キリスト教徒は、モーセ五書を始めとした「タナハ」（旧約聖書）を、ユダヤ教徒とは異なる視点で解釈する「ナザレ派」として台頭しました。長年ユダヤ人が待ち望んでいた油注がれた王であるメシアが、イエス・キリストだと信じます。残念ながらA.D.2世紀以降のキリスト教徒のモーセ五書への接し方は、反ユダヤ的であり、多くの教父たちはタナハをユダヤ民族のルーツの書から、キリスト教徒のルーツの書として読み替えました。しかし大頭牧師は丁寧に申命記の意味をユダヤ人たちの視点で理解しています。イスラエルの三大祭りや、逃れの町を一足飛びにキリスト教的な予型的解釈に持ち込むことはしません。イスラエル

の神がキリスト教徒の神でもあるという謙遜さの中で、「神に愛されているあなたがた」（33頁）という呼びかけによってユダヤ教徒とキリスト教徒を結ぶ説教姿勢に心打たれます。

次に、現代日本人がモーセの律法の言葉を自分のこととして受け止められる温かい視座を与えています。しばしば律法に関しては、「誰も守りきれる人はいないので、信仰のみで救われる」とか、「律法を守ることは、真の信仰者であるバロメーターだ」といった理解に傾く場合があります。大頭牧師は律法の文字の先に神の「み思い」を見出すことに力点を置いて、このように語ります。

「なんで神さまはそれをしちゃいけないとおっしゃるのか、神さまが愛しなさいと言われるのはどうしてか、その根本にあるご人格というか、ご性質というか、そういうものに近づけということなんです。」（141頁）旧約の神も新約の神も同じ神であり、その神の胸に抱かれて生きよ、という語りには、思わず飛び込んで行きたくなります。

最後に、申命記のお言葉からイエス・キリストのあがないを絶妙に、多様な手法で語っています。動物犠牲の規定からキリストの死による罪の赦しを語り（92頁）、聖絶という最も語り難いテーマから、十字架による悪の力への勝利を語り（81頁）、神の律法を成し遂げられない傷をキリストが十字架で負われた傷と重ねて癒やされる感化を語ります（127頁）。

律法の文字面の理解で終わらず、その真意を神の愛から受け取り、読者を神のかたちへの変貌へと誘おうとする説教は、言語行為論と物語神学を見事に融合させた、真に力ある神のことばの語りです。実に多くの「焚き火仲間」がこの説教集シリーズ作成を手伝っておられること自体がその力強い証しとなっています。

（にしはら・ともひこ＝日本バプテスト教会連合 金剛バプテスト・キリスト教会牧師）

（新書判・二三二頁・一二一〇円・ヨベル）

村椿嘉信著 ＊絶賛発売中
荒れ地に咲く花
生きること愛すること

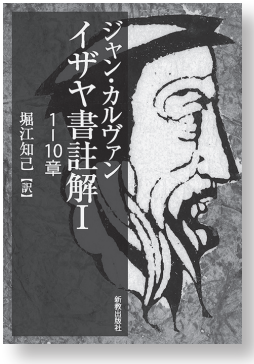
混沌とした時代にあって、社会のさまざまな問題と関わりながら、どのように生きるべきなのか。イエスは「愛すること」が決定的に重要だと指摘した。

四六判・160頁
定価1,320円
ISBN978-4-909871-43-5

ヨベル YOBEL Inc.
お問い合せ：info@yobel.co.jp
情報：http://www.yobel.co.jp

達意の訳文で甦る改革者の釈義

〈評者〉大西良嗣



イザヤ書註解Ⅰ
1－10章
ジャン・カルヴァン著
堀江知己訳

カルヴァンによるイザヤ書註解の日本語訳出版が始まった。たいへん喜ばしいニュースである。ラテン語もフランス語も読むことができない私のような者にとっては、原著からの邦訳はありがたい。カルヴァンのイザヤ書註解は分量が多く、英訳を読むのにも苦労があったが、とても読みやすい日本語に翻訳されたことによって、たいへん身近なものとなった。しかも、読者がカルヴァンの論旨を追いにくいと思われる箇所に、ことごとく［　］によって訳者による補足が入れられていて、読み進めるのに詰まることがない。丁寧は翻訳作業がなされたことを感じさせられる。

訳者の堀江知己先生は、創世記註解の前半が渡辺信夫先生によって邦訳されてから長らく（三六年）中断されていた翻訳を完結されたことで、すでにカルヴァン旧約聖書註解邦訳に大きな貢献をされている。そして、このたび、イザヤ書註解に取り組み始めてくださったことに心からの敬意と感謝を申し上げたい。これから数巻に及ぶ出版が続くことになると思われるが、日本におけるカルヴァン研究の歴史に残る訳書になるに違いない。

カルヴァンによるイザヤ書註解を読む今日的な意義を書き添えておきたい。今日、聖書の解釈史を学ぶことの重要性が認識されるようになっている。歴史批評や文学批評的な研究の重要性が失われたわけではないが、聖書が教会をどのように形作ってきたのかを考える上で解釈史は重要である。私のような改革派伝統に属する者にとっては、自分たちの教会の伝統を形作った聖書解釈は、まちがいなくカルヴァンに負っている。今日の教会のあり方を考える上でも、カルヴァンの聖書解釈を確認することは大きな意味を持つ。そのためにもイザヤ書註解を日本語で読めるように

なった意義は大きい。

読みやすい訳文を通して、カルヴァンが歴史批評的な聖書研究の発達に貢献したことを改めて感じさせられる。ただしカルヴァンは、イザヤ書の字義的文法的意味や歴史的背景を確認しながらも、神が預言者を通して語っておられるという視座から離れることがない。そして、解釈されたものを彼の同時代の教会に適用する。ただし寓喩的（アレゴリカル）に意味を当てはめてしまうことを批判し、聖書で語られたことと類似的な教会の状況に当てはめる。また、メシア預言に関する箇所では、預言者がバビロンからの解放など特定の時代を見据えていたと同時に、キリストがお生まれになる時代をも見据えていたという解釈を採る。

カルヴァンは、ヘブライ語の知識を含めて非常に優れた学識を持っていたが、より研究の進んだ今日の註解書とは見解が異なる点も多い。しかし、前述のカルヴァンの解釈の姿勢は、学問的に発達した今日の註解書を読みつつも、教会に何が語られるべきかを教えてくれる。カルヴァンの聖書研究が、教会に足場を置き、教会を建て上げるためのものであったゆえだろう。

今日の教会において、旧約聖書からの説教が少なくなっていると言われる。この訳書の出版は、日本の教会の牧師たちを通して旧約聖書から豊かな説教が語られるためにも、確かな助けになるに違いない。

（おおにし・よしつぐ＝神戸改革派神学校常勤講師・日本キリスト改革派宝塚教会牧師）

（A5判・五九〇頁・定価六八二〇円・新教出版社）

ヨベルの新刊案内

聖化の再発見〈ジパング篇〉

［編著］大頭眞一と焚き火を囲む仲間たち

「先生の周りで『きよめ』で困っている人というのはあるでしょうか。」えっ、いきなり、そこですか?! こちらがたじろぐ直球でズバズバ切り込み、現代に生きるキリスト者の聖化（きよめ）の問題を生活の最前線で解明せんと欲す。〈ジパング篇〉誕生。四六判・二四〇頁・一八七〇円

ケズィック・コンベンション説教集

キリストの光に照らされて歩む

2023

好評！四六判・一六〇頁・一六五〇円

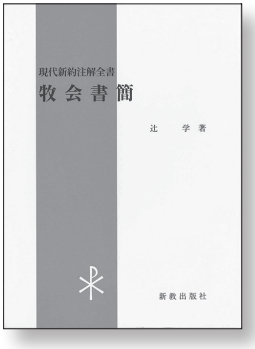
今の時代にキリスト者として、どう歩み、証言し、生きるか。与えられた使命とは。鎌野善三師：「説教は生ものだ」と聞いたことがあります。みことばの光によって魂が照らされて、あるいは悔い改め、あるいは励まされ、キリストに自らを明け渡して歩んでいけることは何と大きな恵みでしょうか。

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 （税込）

†本・批評と紹介

キリスト教の多声性を顕わにする最良の注解

〈評者〉河野克也



牧会書簡
現代新約注解全書
辻　学著

本書は、パウロの影響史を専門とする辻学氏が、『福音と世界』（新教出版社）に五年九ヶ月にわたって連載した牧会書簡（Ⅰ・Ⅱテモテ、テトス）の釈義にさらに大幅に手を入れて完成させた、実に七六〇ページにも及ぶ学術的注解書である。そこに展開される「新約聖書の一言一句と向かい合い、他の研究者との対話も含め、その意味するところをていねいに探」る（七五七頁）釈義は、文学批評の視点とも対話しつつ精度を増した歴史批評の最良の例と言えよう。また教育的配慮に満ちた本注解書は、読者が個々の章句に関して提示される議論を辿ることで釈義のプロセスを学ぶことができるように意図されており、辻氏の教育者としての熱意が読み取れる。

辻氏は本注解書において、牧会書簡全体として整合性の取れた読みを提示する。牧会書簡はパウロが弟子のテモテとテトスに宛てた三つの独立した手紙の形式で書かれているが、辻氏によれば、実際にはパウロの没後、パウロ書簡集が編纂され広く読まれるようになり、競合する「多様なパウロ解釈が生まれている状況の中で『正統』なパウロ理解を提示する」ために書かれた、三つで一つの偽書である（一〇―二四頁、引用は二三―二四頁）。それは、牧会書簡が取り組む諸問題、特に偽教師や間違った教えの問題が、パウロ自身の真正書簡における不明瞭な発言によって生じた側面もあるからであり、だからこそ、その解決を「正しい」パウロ解釈として提示したのである。

ただし、牧会書簡の提示するパウロ解釈がパウロ自身の意図と異なる場合もある。女性の従順を教える牧会書簡の女性観はその分かりやすい例であろう（一六八―九六、二八七―三二七頁：一テモ二・八―一五、五・三―一六）。

辻氏はその背景として、教父たちも報告する極端な禁欲主義を主張した「節制主義者」（エンクラティータイ）の存在を指摘する（四三―四四、三二五―二七頁）。一コリ七章でパウロが非婚状態の維持を推奨したことを拡大して、彼らは「若いやもめ」たち（ギリシア語ケーラ［やもめ］は非婚女性全般を意味した）に禁欲を勧め、結婚と家庭に縛られることなく自立して活動することを教えたと考えられるが、牧会書簡の著者は、彼女たちがその影響を受けて一旦は禁欲の誓いを立てても、「女性たちには性的欲望があるから、禁欲主義的姿勢を維持できず、放蕩に走る」ことでその誓いを破り、罪を犯すことになると警告した（三一〇―一五頁：一テモ五・一一―一二）。牧会書簡の著者は、女性たちに沈黙を命じた（一コリ一四・三四―三六）パウロを後ろ盾に、女性たちが結婚して子どもを産み家庭内での役割をよく果たすことによって、外部の反対者に批判の口実を与えないようにと教えたのである（三一八―二一頁）。

この対応は「牧会書簡〔が〕、『家の秩序』というモデルを周囲の社会から取り入れることで社会に順応し、パウロの教説を教会職制の担い手によって守っていく」選択をしたことを示す（五二頁：S. Schreiber の説）。つまり、周辺社会に溶け込み、ローマ帝国内において安定して存続することを目指したということになろう。しかし、「この世の有様は過ぎ去る」（一コリ七・三一）との切迫した再臨信仰に生きたパウロは、その「過ぎ去る」社会への順応を命じるはずがない。はたして牧会書簡は「正しい」パウロ解釈と言えるであろうか。また、牧会書簡の著者は女性たちが性的欲望のゆえに禁欲の誓いを果たせないと考えたが、少なくとも、現代のわたしたちには、女性に対するそのような「相当ひどい偏見」（三一〇頁）を繰り返す選択肢はない。

牧会書簡によるパウロ思想継承の「正しさ」をどう評価するかはともかく、パウロの教えをパウロ自身の状況とは大きく異なる状況に適用させること自体は、私たち自身の課題でもある。パウロの名による牧会書簡として正典中にそうした試みが記録されていることは、逆説的ではあるが、「正解」が一つだけではないキリスト教解釈の多声性を、私たちのために担保しているのかもしれない。

（かわの・かつや＝東京神学大学特任准教授）

（A5判・七六〇頁・定価九九〇〇円・新教出版社）

†本・批評と紹介

闇夜に輝き、主イエスの愛を奏でる、ふたごの星のように

〈評者〉佐藤知津子

ヒャッホウ！おばあさんだって冒険したい！
～闇夜にまたたく星 それは道しるべ～
Duo Stella（でゅお・すてら） フルート・紫園（しおん） 香（かおり）、
ピアノ・菅野（かんの）万利子（まりこ）共著

まず、この本のタイトルの『ヒャッホウ！』と呼びかけられて、びっくりしませんでしたか。『おばあさんだって冒険したい！』――〝ふたり合わせて130歳のおばあさんたちの、いったいどんな冒険なんだろう〟と軽い気持ちで読み始めて、すぐに心の姿勢を正しました。そして夢中で読み通しました。それは、フルート奏者の紫園香さんとピアニストの菅野万利子さんの歩んでこられた壮絶な試練の歴史から始まっていたからです。

おふたりが世界に活躍する音楽家となったのは、もちろんその類（たぐい）まれなる才能によるものです。けれどもどんな宝玉の原石も、磨かれなければ輝きを放ちません。試練の砥石によって、ぎりぎりと身を削って研がれなければならないのです。乗り越えても乗り越えても押し寄せる苦難。厳しい競争社会での孤独と挫折。自分や両親の病気と離別。才能や努力・人間の力の限界を知ったおふたりを救ったのは、十字架にかかって苦しみ抜いて命を捧げてくださったイエスさまの、圧倒的な愛でした。

闇の中で見出（みいだ）した光に救われ、導かれたおふたりは、“Duo Stella”（ふたつの星）という「天の輝きを放つアンサンブル」を結成し、本書のサブタイトル『闇夜にまたたく星』として、闇の中で苦しむ人々をイエスさまの愛に導く『道しるべ』となったのです。

香さんはよく、〝大丈夫！〟という言葉を使います。「神さまはどんなお祈りも、必ずお聞きくださる。時が与えられるまで時間がかかっても、必ず最善をなしてくださる。だから絶対大丈夫！」だと……。その信仰すらも、神さまから与えられたもの。何度も試練にあって「ドン底を経験」したときに、イエスさまが香さんの「信仰がなくなら

ないように私が祈るから大丈夫だ」と言ってくださったからです。そして香さんに「ドン底を経験させるのは、これから多くの兄弟姉妹の悲しみ苦しみを自分のこととし、力づけ、一歩進むためだ」と。万利子さんも、「心身共に限界」、極限に追い詰められたコンサートで、神さまが「祈れば、大丈夫ここにいるよ」と教えてくださった、と語っています。

おふたりに才能があって特別だったから、神さまが愛してくださったわけではない。神さま以外にすがるものはない、と何もかも手放して頼ったからこそ、助けてくださった。〝だからあなたも大丈夫、助けていただけるよ〟と、香さんと万利子さんは、この本を読む私たちに呼びかけているのです。

今、世界は混沌とした闇の中にあります。けれど、このおふたりの紡ぎ出す天上の調べは、その闇の中に光を届けてくれるのです。日本のいたるところへ、そして広く世界へと……。

「羅針盤は聖霊。燃料は信仰。嵐にあっても大丈夫。私たちの船にはイエスさまが乗ってくださっているから！」

さあ、Stella号を操って航海に出発する、この頼もしいおばあさんたちの冒険の旅を、私たちも楽しみに応援していきませんか。

「光は闇の中に輝いている。そして、闇はこれに打ち勝たなかった。（ヨハネによる福音書1章5節）」

（さとう・ちづこ＝日本同盟基督教団藤代聖書教会教会員・翻訳業）

（四六判・八〇頁カラー口絵一丁・一一〇〇円・ヨベル）

ヨベルの新刊／既刊案内

［ヨーロッパ思想史］

金子晴勇 キリスト教思想史の諸時代［別巻2］

アウグスティヌスの『三位一体論』を読む

若き日の取り組みから70年を経て、ついに完成した『三位一体論』の詳細なコメンタリー。古代キリスト教最大の成果であるこの教義を［カリタス＝聖い愛］の本性から解明した書。

三位一体の類似像を発見する手引きとなっているのが愛の現象であり、この愛が知性を媒介にしてその存在構造が解明されたことがここに明らかになった。しかも愛の本性は対象に向かいながら同時に自己に向かっている。（本書より）

全９巻完結！

Ⅰ『ヨーロッパ精神の源流』［2版］
Ⅱ『アウグスティヌスの思想世界』［在庫僅少］
Ⅲ『ヨーロッパ中世の思想家たち』［在庫僅少］
Ⅳ『エラスムスと教養世界』
Ⅴ『ルターの思索』
Ⅵ『宗教改革と近代思想』
Ⅶ『現代思想との対決』
別巻1『アウグスティヌスの霊性思想』
別巻2『アウグスティヌス「三位一体論」を読む』［新刊］

新書判美装・平均二七二頁・各巻本体一三〇〇円

ヨベル *YOBEL Inc.* info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 （税込）

■日本キリスト教団出版局

遠藤周作探究Ⅲ
――遠藤周作の文学とキリスト教

山根道公著

遠藤周作に影響を与えた人々や出来事に関する考察、他の作家との比較等を通して、遠藤文学やその作品への理解を深める。

A5判・352頁（予定）・定価4180円

文脈の中のアフォリズム
――箴言10-12章の構成の研究

加藤久美子著

2句からなる1行詩によって構成されている箴言10～12章。そこに展開される構文や語形等を緻密に吟味し、その構造や統一性を明らかにする。

A5判・352頁・定価6600円

VTJ旧約聖書注解
エレミヤ書1～20章

大串　肇著

文体や内容が非常に難解であるエレミヤ書を40年近くにわたって研究してきた著者が、最新の研究を反映させながら丁寧に解説する、渾身の一冊。

A5判・586頁（予定）・定価9240円

INFORMATION
近刊情報

説教ワークブック
――豊かな説教のための15講

トマス・H・トロウガー、レオノラ・タブス・ティスデール著
吉村和雄訳

イェール神学校の説教のクラスを紙上再現。よい説教とは何か、どう聖書を読むか、聖書釈義とは、説教の形のレパートリーを増やそう等々、全説教者が待っていた実用書。

A5判・200頁・定価3300円

ヨブ記を読もう
――苦難から自由へ

並木浩一著

苦難の意味を問うヨブ記は多くの読者をひきつける。しかし、その難解なテクストを読み通すのは一苦労。『ヨブ記注解』の著者による明快な解き明かしと共に、ヨブ記を読み通そう！

四六判・224頁・定価2640円

あらすじで読むキリスト教文学
――芥川龍之介から遠藤周作まで

柴崎　聰監

一般にはキリスト教文学として知られているわけではないが、キリスト教のエッセンスが含まれている名作を日本文学研究者らが「あらすじ」をもって紹介する。

四六判・160頁・価格未定

■新教出版社

奴隷より身を起して
――ブッカー・T・ワシントン自伝

ブッカー・T・ワシントン著
佐柳文男、佐柳光代訳　大森一輝解説

一九世紀末から二〇世紀初頭にアメリカ合衆国で最も著名な黒人であったワシントンの自伝。奴隷の子がいかに苦学力行の末に成功したかを綴る。黒人「保守派」の元祖と目される人物の自画像を通じて、読者は、差別に対する闘争と迎合の微妙な狭間を考えさせられるだろう。大森一輝氏によるワシントン受容史をめぐる解説も充実。

四六判・260頁・予価2800円

クィア神学入門

クリス・グリノフ著
薄井良子訳

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等々、ジェンダーやセクシュアリティの点で非規範的であることを表す「クィア」。それをめぐる多様な神学的冒険を平易に解説した画期的入門書。

四六判・300頁・予価3300円

■教文館

ユダヤ慈善の近代化

田中利光著

ユダヤ教の教典に基づいて実践されてきたユダヤ慈善が、近代以降に世俗の社会事業とどのように対峙し、ユダヤ教ソーシャルワークを形成したのかを考察する。社会事業史学会第34回社会事業史文献賞受賞作である『ユダヤ慈善研究』に続く論究。

A5判・170頁・定価3300円

タムソン宣教師夫人メアリーの日記
(1872-1878)

メアリー・タムソン著
中島耕二編
阿曽安治訳

アメリカ長老教会宣教師として来日し、横浜と築地で教育活動に従事したほか、夫である東京基督公会初代仮牧師デヴィッド・タムソンの伝道活動を支えたメアリーの日記の翻訳と解説。日本プロテスタント伝道史における貴重な史料。

四六判・220頁・定価2970円

■キリスト新聞社

牧師・大頭の「焚き火」日記

大頭眞一

キリスト新聞の人気連載が単行本化。人に出会い、話を聞き、聖書を語り、祝福を祈る……ただそれだけに奥が深い牧師の仕事。人気沸騰中の焚き火牧師こと大頭眞一が知られざる聖職者の日常をゆるゆると描く、新感覚牧会日誌。

四六判・166頁・予価1300円

INFORMATION
近刊情報

『本のひろば』2023 年のバックナンバーをご紹介します。またバックナンバーは Web 上で閲覧できます。下記アドレスから「『本のひろば』バックナンバー」にアクセスしてください。

https://honhiro.com/

2023年1月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：酒と本と、他者を知ろうとすること　ミラ・ゾンターク		
幕末漂流民について知るならこの三冊！　長谷川与志充		
ヨハネ福音書を読もう　下	松本敏之著、日本キリスト教団出版局	石田　学
短く簡単な祈りの方法	ギュイヨン夫人著、教文館	柳田敏洋
お互の心が内に燃えたではないか	森田美千代著、教文館	小池茂子
キリスト教思想史の諸時代　Ⅵ	金子晴勇著、ヨベル	佐藤真一
フルベッキ伝	井上篤夫著、国書刊行会	鈴木範久
大災害の神学	アリスター・E・マクグラス他共著、キリスト新聞社	正木牧人
聖化の再発見　上・旧約　下・新約	英国ナザレン神学校著、いのちのことば社	原田彰久
新約聖書の奇跡物語	川中仁編、リトン	大川大地
良き力に不思議に守られて	宮田光雄著、新教出版社	大島　力
正教の道	主教カリストス・ウェア著、新教出版社	竹田文彦

2023年2月号

巻頭エッセイ：ウクライナとロシアと共に祈る　高橋沙奈美		
グノーシスを学ぶならこの三冊！　土井健司		
キリスト教教義学　下	近藤勝彦著、教文館	井ノ川勝
悲劇を越えて	R・ニーバー著、教文館	安酸敏眞
キリスト教教父著作集 5	アレクサンドリアのクレメンス著、教文館	小高　毅
世代から世代へ	チャールズ・フォスター著、教文館	岡村直樹
いのちの言葉を交わすとき	飯島信編著、ヨベル	小暮修也
聖霊の上昇気流	岩本遠億著、ヨベル	藤本　満
少女の命・女性の命、嵐の中から新たな命	吉岡容子著、ヨベル	深澤　奨
アガペーとフィリア	原口尚彰著、リトン	辻　学
反ナチ抵抗運動とモルトケ伯	雨宮栄一著、新教出版社	小海　基
聖化の再発見　上・旧約　下・新約	英国ナザレン神学校著、いのちのことば社	原田彰久

2023年3月号

巻頭エッセイ：古本市で見つけた本　津田謙治		
旧約聖書の説教を読むならこの三冊！　左近豊		
八木重吉　家族を詩う	日本キリスト教団出版局編、日本キリスト教団出版局	小林正継
大学にキリスト教は必要か	梅津順一著、教文館	大西晴樹
神の子イエス・キリストの福音	久野牧著、一麦出版社	吉田　隆
ウェストミンスター信仰告白講解　上巻	袴田康裕著、一麦出版社	水垣　渉
なぜ君は笑顔でいられたの？	「福本峻平の本」制作委員会著、いのちのことば社	嶋田順好
ロゴセラピーと物語	勝田茅生著、新教出版社	林田憲明
共観福音書　下	ジャン・カルヴァン著、新教出版社	野村　信
心が傷つきやすい人への福音	高橋秀典著、ヨベル	坂野慧吉
みことばの楽しみ	山口勝政著、ヨベル	坂井純人
どう読むか、聖書の「難解な箇所」	青野太潮著、ヨベル	榎本　譲

書店名	郵便番号	住　所	電　話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西６丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrinkan_syoten_0530@yahoo.co.jp	02350-0-874
エッサイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6　東北教区センター・エマオ1F	022-223-2736	共用	https://sendaicbs.uccj.jp/	info@sendaicbs.uccj.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新宿2-8-2　千葉クリスチャンセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimdo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1日キ販内（外販専門）	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkihan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7b.biglobe.ne.jp/~yokohama-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市昭和区丸屋町3-16 日本キリスト教団東海教会内	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.coocan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-inet.or.jp/people/ktjordan/	ktjordan@mbox.kyoto-inet.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkihan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/matsuyama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花４丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は　日キ販営業部　℡ 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2024年3月号

特集＝反動

寄稿者＝五井健太郎、長崎浩、平井玄
箱田徹、坪光生雄、安藤歴

書評　辻学『牧会書簡』（**山口希生**）、浅野淳博『新約聖書の時代』（**廣石望**）／**好評連載**
地域から考える在日朝鮮人史と教会史（**金耿昊**）、新約釈義ルカ福音書（**山﨑ランサム和彦**）、古代イスラエル文学史序説（**勝村弘也**）ほか

日本基督教団と北森神学1（**川口葉子**）

A5判・定価660円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社　TEL：03-3260-6148
Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

今年の始め、休みの間に家の本の整理をした。もともとスライド式の大きな本棚を使っていたのだが、棚板の上に収まりきらない本を動く棚の間にも積み上げたせいでスライド機能が意味をなしていなかったうえ、そこからもはみ出た本が家の床のあちこちに小山を作り、それは雑然としていたのだ。新しい本棚を廊下に置いてそれらの本を収めたところ、家の中がだいぶすっきりとした印象になった。棚に綺麗に並んだ本を眺めては「文明的な感じがするね」と家族と言い合って満足している。狭い廊下がますます狭くなったというのに呑気である。

しかしこの「文明的な感じ」という自分の感想に後から違和感を覚えた。散らかっていようが棚に並べられていようがそこにあるのは本なのだから、文明の産物であることに変わりはないのではないか。そこで「文明」を辞書で引いてみた。「種々の専門職に従事する人びとが集まって形成する都市を中心に整然と組織された社会の状態」。「整然」が必要なのか！と軽く衝撃を受けた。

そういえば前期の朝ドラでも、主人公の植物学者が部屋じゅうに植物の標本をため込んで周りから「狸の巣穴」とか言われていた。研究者にとっては文化的な学術資料であっても物としては枯れた草、といえば確かにそうだが、整頓されずに置いてあるというところで自然・野性のイメージがより強められていたような気がする。社会や学問の発展と部屋の片付けではスケールが違うとは知りつつも、すこし釈然としない気持ちを抱えたまま、今日も買ってきた本が棚に入らず床に積み上げている。

（豊田）

予告

本のひろば

2024年4月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）土肥研一（特集）「信仰と虐待を考えるなら、この三冊！」（書評）マリ・ヨアスタッド著『旧約聖書と環境倫理』、ロバート・W・プリチャード著『アメリカ聖公会の歴史』、日本キリスト改革派教会訳『ウェストミンスター小教理問答』、アウグスティヌス著『詩編注解(6)』他

2月の新刊（価格表示は税込）

キリスト教信仰

キリスト教教理入門

コリン・E・ガントン 著
柳田洋夫 訳

現代における三位一体論的神学

カール・バルトの神学を継承しながら、その聖霊論の不十分さを指摘し、克服しようとしたガントン。著者の教義学の構想を知ることができる唯一の書であり、キリスト教教理の最良の入門書。

●A5判・並製・312頁・定価4、070円

コリン・E・ガントンの著作、好評発売中！

キリストと創造

須田 拓 訳

被造物である人間が「神の像」であるとは？　イエス・キリストの神性と人性はどのように理解されるべきか？　聖霊論の新しい光のもとに、主イエスの在り方を三位一体論の視点から捉え直す意欲的な試み。

●B6判・並製・180頁・定価2、200円

説教によるキリスト教教理

柳田洋夫 訳

教理とは何か？　教理は私たちの信仰生活にどのような意味を持つのか？　現代イギリスの神学者の中でも、正統的な神学を踏襲しながらその個性ゆえに最も輝きを放った著者が語った教理説教集。

●四・六判・並製・320頁・定価3、080円

ナジアンゾスのグレゴリオスの聖霊論

田中従子 著

聖霊は「神」であると明言した教父の神学

キリスト教信仰の核心でありながら、聖書に明白に書かれていない聖霊の神性。神論をめぐる論争の時代、この難問に向き合い、正統な三位一体論を完成に導いた教父の神学に迫る、貴重な研究。

●A5判・上製・310頁・定価4、950円

秘密の花園

F・H・バーネット 作
脇 明子 訳

閉ざされた庭で少女が体験する奇跡の物語

『小公子』『小公女』のバーネットの代表作を児童文学翻訳の名手が新訳。世紀を超えて愛される傑作の邦訳決定版！

●四・六判変型・上製・444頁・定価2、310円

聖書事典の金字塔
待望の復刊！

［縮刷版］

旧約新約聖書大事典

旧約新約聖書大事典編集委員会 編

聖書学だけでなく、古代言語学・歴史学・考古学・宗教学などの成果を結集し好評を博した大事典が、手に取りやすい縮刷版で登場！　早期購入特典として、同時復刊の『「新装復刻版」聖書地図』を応募者全員にプレゼント（応募締切：2024年4月末）。

●A5判・上製・函入・1456頁・定価29、700円

教文館　〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549（出版部直通）《呈・図書目録》
キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は〈e-shop 教文館〉
http://shop-kyobunkwan.com/ まで！

本のひろば
第七九五号　二〇二四年三月号
一九五七年七月一七日　第三種郵便物認可
二〇二四年三月一日発行（毎月一回一日発行）

新教出版社　〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1　Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198
HP：http://www.shinkyo-pb.com, email：eigyo@shinkyo-pb.com

イザヤ書註解Ⅰ　1—10章

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳

1551年に出版されたカルヴァン初の旧約註解。ヘブライ語の深い知識に基づいて、真剣に預言書に取り組む改革者の肉声。邦訳全5巻。

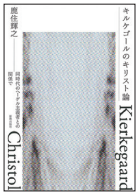
◆A5判・定価6820円

キルケゴールのキリスト論

鹿住輝之著　同時代のヘーゲル主義者との関係で

キルケゴールのヘーゲル批判をデンマーク社会の近代化の文脈で捉え直し、その核心をキリスト論に見出した俊英の力作。

◆A5判・定価4950円



不安という相棒

四つのタイプとどう付き合えばよいか

フリッツ・リーマン著／赤坂桃子訳

見えてくる不安の諸相とその克服の方途。精神分析から鮮やかに

◆四六判・定価2970円

われら主の僕

ICU伝道献身者の会編

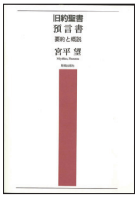
リベラルアーツの森で育まれ

2月26日

献学以来3万人の卒業生を送り出してきた国際基督教大学は、牧師をはじめ数多くの福音伝道者を輩出してきたことでもよく知られる。この特異な学舎で彼らの献身の志はいかにして育まれたのか。70名余りの卒業生の、遺稿も交えて記される興味尽きない証し。

【寄稿者の一部】松永希久夫、小澤貞雄、新保満、竹前昇、原崎百子、川田殖、荒瀬正彦、齋藤和明、並木浩一、棟居勇、伊藤瑞男、斎藤剛毅、渡邉正男、絹川久子、長沢道子、左近和子、田中弘志、浅井重郎、吉馴明子、宮﨑彌男、矢澤俊彦、青野太潮、安積力也、梅津順一、栗林輝夫ほか

◆A5判・定価2420円



旧約聖書 預言書　要約と概説

宮平 望著　◆A5判・定価2530円

旧約聖書の全文書を、章ごとヘブライ語原典に基づき要約、新約聖書の視点からメッセージを解読する。創見に満ちた解釈を随所に盛り込み、聖書通読と学びが楽しくなる。旧約の複雑多様な世界を読みための進める好個の手引き。

既刊：律法書（2200円）、歴史書（2200円）、文学書（2090円）

発行所　〒162-0814　東京都新宿区新小川町九－一　一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三－三二六〇－六五二〇　振替〇〇一七〇－五－一一六七九
発行人　金子和人　編集人　村上信児　印刷所　モリモト印刷㈱
発売所　日本キリスト教書販売株式会社　電話〇三－三二六〇－五六七〇
定価七八円（税抜七一円）（〒63円）
一年分一三〇〇円（送料共）

本のひろば.com